

舟石川・船場地区 村政懇談会

日 時：平成26年6月27日（金） 午後7時から9時分まで

場 所：舟石川コミュニティセンター 会議室・多目的ホール

出席者：村執行部（村長，副村長，教育長，総務部長，村民生活部長，福祉部長，建設農政部長，教育次長）

事務局（課長，副参事，課長補佐，自治推進課職員4名） 計7名

自治会長（舟石川1区，船場区，舟石川2区） 計3名

自治会連合会（副会長，事務局長，事務局職員2名） 計4名

参加者：舟石川1区38名，舟石川2区15名，船場区10名，
その他33名

計96名

司会進行：舟石川・船場地区自治会企画総務部会長

総計110名

《次第》

開会の言葉

1. 出席者紹介（自治会長及び村執行部）
2. 地区自治会長あいさつ
3. 村長あいさつ並びに村政に関する説明
4. 地区自治会からの事前質問・要望に関する回答
5. 自由質問

《記録》

【3. 村長あいさつ並びに村政に関する説明後の質疑】

舟石川1区住民：村の情報の共有化に関連した話。Wi-Fi環境などを整える前に前に中身を考えて欲しい。去年も提案させてもらったが，色んな方法があると思う。住民が色んなことをやっていけるシステム作りをもっと考えてほしい。

村長：今年度は情報発信を出来るだけ多くやっといこうと考えている。今年度まちづくり推進課を作り，その中に情報発信担当がある。役場の業務の中で情報発信をしていくのが狙い。そのような情報発信に関する意見は担当へ提言していただきたいと思う。

【4. 地区自治会からの事前質問・要望に関する回答後の質疑】

舟石川1区住民：変則交差点の危険の解消の件について。この件に関しては，具体的な要望を出しているが，村からの回答は「自治会の方で検討委員会を立ち上げなさい」という具体性のない回答だと思う。もっと具体性のある答えがほしい。村として住みやすいまちづくりを謳っているのだから，それに見合った回答をお願いしたい。

建設農政部長：現在まちづくり課では，「車中心の道から人に優しい道へ」とい

舟石川・船場地区 村政懇談会

う基本理念のもと、みちづくり基本計画というものを作っており、検討委員会を立ち上げ自治会の方と話し合いを進めることとしている。これまでは村が主体でみちづくりを進めてきたが、情報の共有、公平性、必要性などを踏まえて村全体でみちづくりをしていきたいという考えである。今後はまずは地域で検討委員会を立ち上げ、役場の担当者、ひたちなか西警察署、PTAや学校関係者を含めて現場の状況を確認しながら今回の提案のようなものが妥当であるかどうか考えていきたい。

舟石川1区住民：行政ではミラーを設置するというような状況の時、個人で地主に説得しろというが、これはとても難しいことである。交渉というのは住民にとって非常に難しいことである。行政というのは村民が困っていることをやる所だと思う。私自身、過去に交渉で難儀した経験がある。行政ではそういうところを援助して欲しいと思う。

建設農政部長：カーブミラーや防犯灯の設置にあたっては、基本的に自治会要望で上げていただくということになっているが、それでも難しいという際には村執行部へ相談していただければ、一緒に交渉したいと思う。相談して欲しい。

【5. 自由質問】

舟石川1区住民：これからは高齢化が進むことが目に見えている。今若い世代は東海村に引っ越してくる人が多いと聞くが、これからは減ってくると思う。その中で自治会や常会に入らない人や抜けていく人が増えているのを感じている。行政の方からも呼びかけているようだが、東海村の自治会に入らなければならないという条例を作ってほしい。また、以前に役場職員の中で自治会に入っている数を聞いたところはっきりとした回答がなかった。噂によると、三分の一ほどしか職員が自治会に入っていないということであった。少なくとも役場の職員は入るべきだと思うがどうか。

村長：自治会加入はどこの地区でも問題になっている。自治基本条例の中には村民に対し、積極的に自治会へ加入することが書かれているがこれを義務にすることはできない。自治会でも加入促進を行い、村でも援助している。全体としては確かに加入率は少なく見えるが、戸建ての人の加入率を見ればそんなに少なくはないと思う。広報とうかいなどは自治会に加入していないアパート住まいの人にも配られたりするの、そのような点では自治会に入らなくても生活が出来てしまっている。単なる呼びかけで加入促進するのではなく、自治会に入ると生じるメリットなどを作らなければいけないと思う。また、役場職員は東海村在住でないものも多く、自治会への加入率も少ないと思われる。外から来た若い職員などは自治会のこともわからないと思うので、今年度から職員を研修として派遣し、地域と一緒に関わって体験してもらおうと思う。少しずつ役場職員および村民全

舟石川・船場地区 村政懇談会

体の意識も変えていきたい。

船場区住民：ゴミ問題はどの地域でも課題だと思う。ゴミ置場の土地は昔は地主が安い金額で貸してくれていたが、世代が変わると「土地を返してくれ」と言われてしまうことも多い。今は個人で土地を貸してくれる人が少ない。行政では家を建てる前にゴミ捨て場を確保するように指導でできないのか。大規模な建設であれば出来ることは知っているが、小さな造成でもゴミ置場を確保するようにできないのか。

村民生活部長：アパート等に対しては建築時にゴミ置場を確保するように指導している。個別住宅に関しては一つの団地が一度に出来るということではないので指導は難しい。しかし、公共用地を貸すことが出来る場所もあり、個別に対応したいので気軽に相談していただきたい。

舟石川2区住民：原発に関してはあと4年前後の寿命だと思う。安全審査を申請するセンスがわからない。今までの原発とのやりとりの中で、どのような考えを持っているのか聞きたい。

村長：原子力規制庁に審査を出すまでにはかなりもめた。日本原電は会社としては新しい基準を作り、適合しているかどうか判断することとしている。廃炉にした方が良いという意見は多くの人が言っており、廃炉にした上でそれを商売にすればいいという意見もあるが、廃炉を会社が自ら判断することはできていない状況である。どこかが原発廃止を言い出さなければいけないが、最終的にはそれをやるのは国しかないと思う。そうは言っても今の時点で新しい基準ができたのは間違いないので、安全性向上のために対策を講じるのは必要。その対策が妥当かどうかをきちんと審査してもらおうと思う。先の話については事業者の安全対策が大丈夫であるのか、村民が避難出来るのか、国としてどう考えているのかなどが揃わないと結論は出ない。お互いが歩み寄って結論を出すには時間がかかる。

舟石川1区住民：舟石川1区集会所建設問題について。村長の話からは前例踏襲主義には捉われないと話があったが、自治会に対する対応は前例主義だと思う。6号国道から北側の外宿1区と内宿1区が重なる部分は公共施設が少なく、エアポケット状態になっている。そのために、国道より北側に集会所を新設したいと希望したにも関わらず、現地建替えじゃないと補助金が出ないという理由で却下されたと聞いた。その後、自治会長が交渉に行ったところ、集会所を建設してほしいとお願いした場所は優良農地だと回答があったらしい。しかし、そこは元山林で雑地の土地であった。かなり高齢化が進んでいる地域でもあり、集会所が現地建替えのままであると災害時に高齢者を誘導するのに困難が生じる。真崎コミセンにも言える事だが、コミセンと集会所が近すぎる。自治会と村執行部が協働で住みよい村づくりだというのであれば、前例や慣例に捉われずにやるべきではないのか。出来ない、やりたくないという言い訳を考えるのではなくて、自治会

舟石川・船場地区 村政懇談会

と村執行部と一緒にあって、どうしたらできるのか考えてくれるのかと思っていた。もう少し自治会の要望に対して一緒に考えて欲しい。

村民生活部長：舟石川1区自治集会所については、まず今年の2月に現地建替をしたいと要望があり、翌3月に他の場所に土地を購入して建替えたいと要望があった。その建替えの要望の場所は市街化調整区域にあたり、集会所を建てるとなると農地山林を残すという村としての観点が失われる。また、今の集会所にはモニタリングポストや屋外放送の設備があり、その移設にも費用もかかるため厳しい。決して前例踏襲ではなく、庁内で検討をした結果、現在地の建替で自治会にお願いしたところである。このようなことから現地建替えでお願いしたい。

舟石川1区住民：緑地を残すと言っているが、現状を見ているのか。20数年前に伐採し更地になり、現在は木が1、2本生えているくらいである。現地も見ずに回答するのか。住民と一緒に考えて一緒に汗を流す考えはないのか。とにかく今のままでは集会所とコミセンが近すぎ、利用者も少ない。防災計画等も立派なものできたが、意味がないと思う。今のままでは災害が起きた際に長期的に能力がないと思う。現在の荒地に防災拠点や福祉の拠点を置くために集会所を建てて欲しいとお願いしている。舟石川1区だけで使おうとはしてない。

村民生活部長：自治集会所を拠点にするという話だが、村では災害時はコミセンを基幹避難所とすることを考えている。また、東日本大震災を踏まえて、総合体育館や学校等も避難所として開設する計画を作り直しており、全部で約5000名の収容ができるようになる。集会所については避難所に来るまでの一時集合場所と考えて欲しい。しかし、集会所建替えの件は色々御指摘もあるのでもう一度村で検討したい。

舟石川1区住民：市街化調整区域だから集会所は建てられないという回答があったが、公共施設も建ててはいけないのか。今、舟石川1区では泉福寺を仕方なく避難所としている。これらは自治会の知恵でなんとかやっている。先ほどの回答は納得いかない。

村長：改めて検討したい。

舟石川1区住民：舟石川1区部会では定期的に高齢者のふれあい食事会を開催しているが、雨の際などは参加者が少なくなってしまう。先ほど村長から村内バスを走らせたいと話あったので、そうなればありがたいと思っている。さらに、役場に配備されている電動自動車をこのような用途でも使えたら嬉しいと思う。役場に配備された電気自動車はどのようなことに使っているのか聞きたい。

村民生活部長：電気自動車は役場の公用車として6台配備している。通常は役場業務で使っているが、災害時には各コミセンの電源車として配備する計画である。各コミセンに職員を配置し、コミセン内の主要な電気を二晩くらいまかなえるようにしている。現在、福祉には使っていない。

舟石川・船場地区 村政懇談会

舟石川2区住民：毎年実施されているクリーン作戦について伺いたい。クリーン作戦の主体は自治会加入者であるが、地区内の会社店舗等にも参加をお願いしたい。法人組織をどのようにクリーン作戦の参加者に組み込んでいくかが今後の課題であると思う。会社は組織なので、参加形態など難しいこともあると思うが、その参加方法を役場で検討して秋のクリーン作戦からでも参加してほしいと思っている。また、村所有の土地、村道敷などもクリーン作戦の範疇だと思う。クリーン作戦の範囲を綺麗にしても、その脇の道路が汚かったら話にならないのではないか。村はどのように考えているのか伺いたい。

村民生活部長：確かに自治基本条例では事業者も村民に入ると謳っている。商工会はクリーン作戦に参加していると思うが、全ての事業者が参加しているわけではないと思うので、改めて事業所等に参加を促す取組をしたいと思う。

建設農政部長：年2回村道の除草を行っている。東海村全域に渡って業者が除草を行うため、村のクリーン作戦と時期が合わない。今後はクリーン作戦に出来るだけ合わせるように検討していきたい。

舟石川1区住民：広報とうかい6月10日号に「思いやりの道ができました」との記事があった。もみじ通りと6号国道がぶつかっている所のクリーニング屋さんのある交差点には現在押しボタン式の信号がある。その箇所は朝の通勤時間帯の車の交通量が多い。その場所では車に乗っている人がわざわざ降りて押しボタンを押して青信号にして渡っており、大変危険である。舟石川小学校の通学路でもあるので危険回避のために感応式ボタンにしてほしい。

建設農政部長：御指摘の箇所は以前はかなり交通量があった。そこではみちづくり検討委員会を立ち上げ、地域の方々と長年協議した上で信号機やグリーンベルトなど歩道の整備をしてきた。その効果もあり、丸一日6:30~20:00まで交通量を計ったところ、整備する前より通行する車が602台減った。押しボタンを感応式にすると走る車の台数も多くなると懸念される。現状の押しボタンで安全が保たれていると考えているので理解をしていただきたい。

舟石川1区住民：たった一日の調査で危険な場所じゃないと判断は出来ないと思う。再検討をお願いしたい。

建設農政部長：現場をひたちなか西警察署と一緒に確認して検討したい。

舟石川1区住民：地域全体で行う地区社協、自治会等の活動情報のためのページを広報とうかいに設けて欲しい。現在は回覧で情報を流しているが、それでは自治会に加入していない人に周知できない。地域全体の情報を自治会未加入者に届けたい。月2回のうち1回でもいいから入れて欲しい。

副村長：いい提案だと思うので検討したい。

舟石川1区住民：舟石川近隣公園に隣接している歩道にある花壇について聞きたい。その花壇は現在草むらになっていて整備されていない。花壇の段差で転び

舟石川・船場地区 村政懇談会

そうになったという話も聞いており危ないと思う。この花壇を作った当時はどうのように管理する話だったのか。住民と話し合いはされたのか。今後この花壇はどうするのか。考えを聞きたい。また、その花壇に花を自治会で植えるというような話もあるのかもしれないが、水を引くことなども難しいと思う。協働のまちづくりを謳っているが、地域でどのくらいできるのかも考慮しないで、説明もなく地域に押し付けるのは協働ではないと思う。

建設農政部長：御指摘の場所は駅西第二土地区画整理地内の公園線である。その幅員は5.5mある。この公園線は公園と一体となった緑豊かな空間、安全で快適な歩行空間を作るということになっている。現場は5.5mと広い幅員のため植樹帯を作ることが理想となっている。現場を確認するとたしかに草が生えていたので、業者に委託発注をして、7月の初旬に草刈する予定である。今後の管理だが、地域と協議中である。地ひ類を植えることや草が生えないようにシートをかぶせるなどの方法を考えている。今後は地域に押し付けないようにしたいと考えている。

舟石川1区住民：最近よく屋外放送でイノシシやサルが逃げ出したとの放送があるが、その後捕まったのか捕まっていないのかの情報が全くわからない。そのような情報のフォローが全くないが、役場ではどう考えているのか。

村民生活部長：中丸地区でも同じ質問があり答えているが、サルもイノシシも捕まっていない。まだ捕まっていないという放送を流すのは現実的ではないので、捕まったら放送したいと思っている。

舟石川1区住民：注意をお願いする放送はあったが、子どもがいる親はその後どうなったのか心配である。まだ見つかっていないのか捕獲されたのか定期的に放送してもらえると親としては安心できる。

村民生活部長：サルについては外宿の浄水場の近辺で目撃情報があり、そのあたりに罠をしかけているがまだ捕まっていない。今後は定期的に放送したいと思う。

舟石川1区住民：水神堂近辺の整備等について質問と要望がある。水神堂には村内で唯一サワギキョウが生息している重要な地点である。環境村民会議でも植物と動物の専門家を呼んで視察会を何回か行った。その場所は生物多様性の観点からも残したいという結果になった。3年前に水神堂の近くに広大な森林があり、地権者が5人ほどいたのでその森林を村民の森として残して欲しいとお願いしに行った事があった。その際に税制面で優遇できるような話がでていたがその措置は取られているのか。私たちはこれまでサワギキョウを増やしてきており、それが成功してきたと考えているが、最近では同じ場所にヨシが増えてきてしまった。地区の環境部会ではヨシを処理するのには限界があるので村としても協力して欲しい。このような場所は子どもたちにも残していきたいので協力して欲しい。

村民生活部長：水神堂の湿地自体は村のものであるが、まわりの山林は個人の所

舟石川・船場地区 村政懇談会

有である。税制面の優遇の話については承知してなかったの確認したい。サワギキョウのまわりのヨシだが、処理を考えたい。